

ミラー・ビューティー洗浄マニュアル

1. ミラー・ビューティーの用途

- ・ 鏡
- ・ フロートガラス（ミラーガラスは使用不可）

2. 適応する汚れ

- ・ 鏡の白いカルキ汚れの清掃
- ・ フロートガラスの水垢による鱗焼けの清掃

3. ミラー・ビューティーの特徴

ミラー・ビューティーは、鏡やフロートガラスに付着した水垢などの汚れやカルキ（スケール）を落とし、油汚れも落とせる油分解作用を持つ茶葉を主成分とする植物性の弱酸性洗剤です。

4. 準備物

洗浄を行う現場には、以下の物をご用意下さい。

なお、汚れ分解した後、分解した汚れを洗い流さなくてはいけないため、現場に水道水があるかを事前に確認しておいて下さい。

■ 洗浄用具

- ・ ミラー・ビューティー（4 L）
- ・ 洗車用スポンジ（市販商品） 人数分
- ・ ゴム手袋（市販商品） 人数分
- ・ バケツ（市販商品） 人数分（洗剤用と水用）
- ・ ガラス清掃用シャンプー・スクイジー
- ・ スクレーパー（三枚刃）



シャンプー



スクイジー



スクレーパー

5. 洗浄の準備

① 保護養生

ミラー・ビューティー（以下、本剤という）は弱酸性ですので、洗浄する箇所の周囲に下記ものがある場合、直接かかると変色、白濁してしまう可能性がありますので洗浄作業に入る前には養生し、保護して下さい。

■ 植木や花壇、植栽などの植物

② 洗浄および希釈倍率の決定

必ずテスト洗浄を行い、材質に対する本剤の影響（腐食、変色、光沢消失等）を確かめて下さい。

この段階で本剤を原液から3倍程度まで清水で希釈し、適切な希釈倍率を決定して下さい。

【希釈目安】

- ・ 鏡：原液～水で3倍希釈使用
- ・ フロートガラス：原液～水で2倍希釈使用

6. 洗浄の手順

- ① 準備物を用意し、ゴム手袋を着用する。

準備物はブルーシートの上に設置し、本剤の移し換えは必ずブルーシートの上で行って下さい。



- ② 本剤を良く振った後、バケツに底から5 cmほど入れ、適切な希釈倍率で水を入れて希釈する。

以降、本剤が入っているバケツはブルーシートの上以外には置かないようにして下さい。

- ③ 本剤を入れたバケツにスポンジを浸し、本剤が滴り落ちない程度までスポンジを絞ります。

- ④ そのスポンジで、洗浄する箇所を塗り上げます。

滴り落ちる本剤をバケツで受けながら、スポンジで汚れている鏡面やフロートガラスを塗り上げます。

1 回目の塗布は洗剤が撥水して弾きます。

2～3 回程度、洗剤を塗布すると弾きがほとんど無くなってきます。弾きが無くなれば水垢などが分解された証拠です。

- ⑤ 汚れが落ちたら、分解後の汚れを水で洗い流して下さい。

水が流せない場合は、ガラス清掃用シャンプーとスクイジーを使用し、洗剤が残留しないように汚れを落として下さい。

洗剤分が残留すると白い粉が残ります。

水で濡らしてみてもきれいな鏡に戻れば汚れが落ちた状態になってます。

- ⑥ 乾くまで待ち、目視にて鏡やガラスに付着した水垢の鱗焼けが無くなっているか確認して下さい。

- ⑦ 水垢の鱗焼けが残る場合は手順④の後にスクレーパー（三枚刃）で鏡やガラスの表面を全体的に削って下さい。白いカスが削れますので手順⑤を行って下さい。

- ⑧ 手順⑦まで施工しても施工面が乾くと白くなってしまう場合は汚れではなく、変色が始まっています。白い変色を隠すためにミラー・プロを塗布すると変色が見えなくなり鏡の復旧が出来ます。（別途、ミラー・プロ施工マニュアルを参照）

7. 使用上の注意

- ・ 必ず作業前に保護メガネ・ゴム手袋等の保護用具を着用して下さい。
- ・ 保護養生しなくてはならないものは、必ず保護養生して下さい。
- ・ 皮膚に付着した場合は、水または温水で洗い流した後、石けんで十分に洗って下さい。痛みやかぶれなど異常を感じた場合は、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。目に入った場合は、ただちに大量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
また誤って飲み込んだ場合は、ただちに大量の流水で口をすすぎ、できるだけ早く医師の診下さい。
- ・ 通行人等の第三者への汚水の飛散に注意して下さい。
- ・ 塩素系洗剤等とは併用及び混ぜないで下さい。
- ・ 直射日光を避け、30℃以下の場所で保管して下さい。
- ・ 本来の用途以外に使用しないで下さい。